

白神山地におけるイベント活動について

藤里森林センター 尾上 綾子

1 はじめに

白神山地は、原始的なブナ林が広範囲にわたって残されていることから、平成5年に「世界自然遺産」として登録されました。それにより社会的関心が高まり、ここを訪れる人、訪れたいと思っている人は増加しているものと思われます。また、近年自然保護の認識が広く国民に浸透し、森林や緑との関わりを持ち、森林づくりや緑化活動に参加したいという志向が強くなっており、同様に森林ガイドに対する需要も高まっていると考えられます。藤里森林センターでは、これらの需要に対応し、さらに、緑化思想の啓発、森林・林業に対する理解を深めてもらうために、白神山地をフィールドとした森林教室、自然観察会等のイベントを実施しています。そこで、イベント応募者の動態と参加者に対して行っているアンケート調査をまとめ、どのようなガイドが望まれているのかを考えます。

2 方法

当センターでは、二ツ森や小岳等の登山、岳岱自然観察教育林や田苗代湿原等での森林浴といったイベントを、季節に応じて年に3～5回程度実施しています。応募方法は、秋田魁・北羽新報等へ記事の掲載を依頼し、申し込みは往復はがきで受け付け、抽選で参加者を決定しています。また、平成12年度に当センターのホームページが設置されてからは、そこでも参加者募集の案内を行いました。アンケートは、12才以上を対象に配布し回答してもらい、イベント終了時に回収しています。

平成8年度の業務研究発表会でアンケート調査の結果について報告しましたが、今回は前回のデータを加えた平成7年度から12年度までの6年間、24回行った調査についてまとめました。

3 結果及び考察

(1) イベントの応募状況

ア. 募集及び応募状況

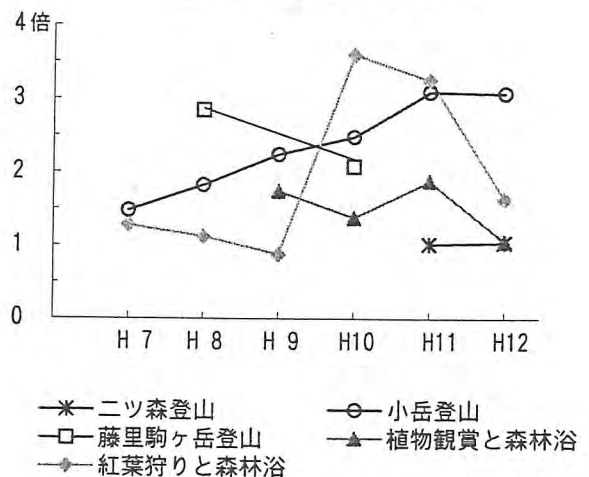
募集状況は1,055名の募集に対して1,996名の応募があり、アンケート調査をおこなったイベントの中では、平成9年度の秋に実施したイベントを除く全てで抽選となりました。6年間で1,014名(51%)の方々が抽選漏れとなっています。(表-1)

表-1 募集及び応募状況

| | H7年度 | H8年度 | H9年度 | H10年度 | H11年度 | H12年度 | 計 |
|---------|------|------|------|-------|-------|-------|------|
| 実施回数(回) | 4 | 4 | 3 | 4 | 4 | 5 | 24 |
| 募集総数(人) | 160 | 170 | 150 | 175 | 200 | 200 | 1055 |
| 応募総数(人) | 199 | 325 | 243 | 425 | 463 | 341 | 1996 |
| 参加者数(人) | 141 | 167 | 135 | 164 | 192 | 183 | 982 |
| 倍率(倍) | 1.24 | 1.91 | 1.62 | 2.43 | 2.32 | 1.71 | 1.89 |

イベントの内容は登山と森林浴に大別されますが、登山道へのアクセスが個人では難しいところやある程度の脚力を必要とする登山への応募が増加傾向にあります。「紅葉狩りと森林浴」については、平成10年度に応募者が急増し11年度とともに3倍以上となりましたが、12年度は減少しています。これは、新聞記事の掲載が遅れたことが影響していると思われますが、一方で、自家用車で手軽に行けること、すでに参加経験のある人が増えてきていることも要因になっていると考えられます。(図-1)

図-1 応募倍率の変化 1



イ. 応募者の居住地

応募者の居住地は、秋田市内・秋田市周辺で6割近くを占め、次に能代市・山本郡内で平均24%となっています。また、県南地区からの応募が増加傾向にあり、白神山地の知名度の上昇がうかがわれます。(図-2) さらに、参加者の「居住環境」を調べたところ、「市街地」が66%を占めており、都市部の人ほど森林に触れることを望んでおり、その手段としてのイベントに需要があることを表していると思われます。(図-3)

図-2 応募者の居住地

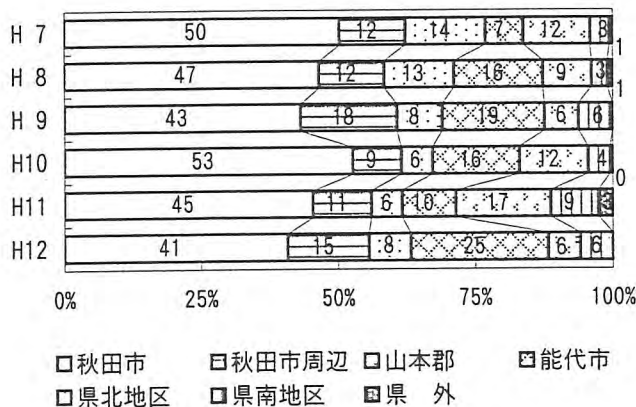
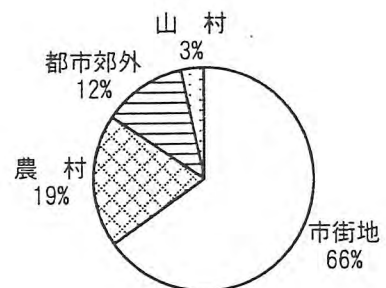


図-3 居住環境



(2) アンケート調査の分析

ア. アンケート調査の配布・回収状況

平成7年度から12年度の6年間で、アンケート対象者 945人のうち回答者は 869人で回収率は92%となっています。

イ. 過去のイベント参加の有無

過去のイベントへの参加については、過去にセンター(または営林署)のイベントに参加したことが「ある」と答えた人が、平成8年度には21%だったのがその後徐々に増え、

12年度には38%となっており、リピーターの増加傾向が見られます。(図-4) また、「白神山地にこれまで訪れた回数」について調べたところ、何らかの形で白神山地を訪れたことがある人が6割以上を占めていることがわかりました。(図-5)

図-4 過去のセンター(署)イベントへの参加経験者の推移

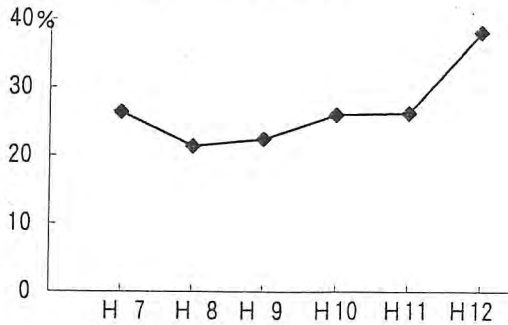
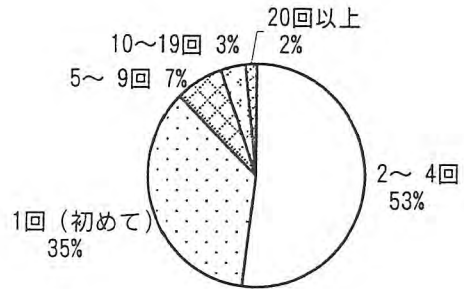


図-5 白神山地を訪れた回数



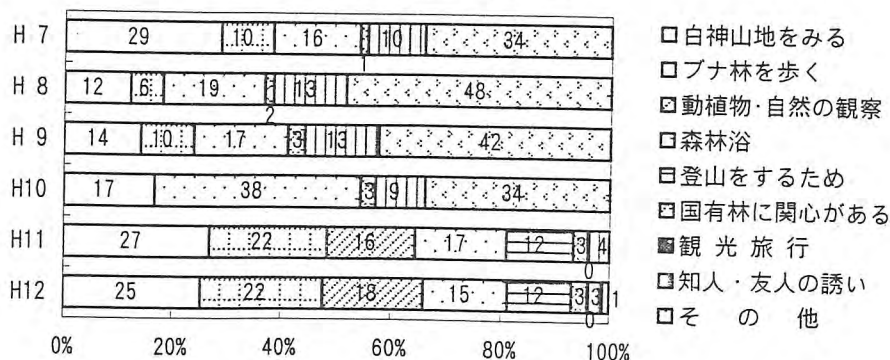
ウ. 参加の動機

(ア) 白神山地を訪れた動機 (複数回答)

平成8~10年度のアンケートまで「登山・森林浴・自然観察が趣味」という質問項目でしたが、11年度からはこれを分け「動植物・自然の観察」、「森林浴」、「登山をするため」としました。また、「観光旅行」という項目も加えました。

白神山地を訪れた動機については、「白神山地を見る」が22%と年によって増減はあるものの一定の割合を占めています。これは、白神山地が自然に親しむ場としてはもとより、観光地としても認識されていることを現していると思います。「ブナ林を歩く」は、平成11・12年度と20%を超え、近年著しく上昇したブナの評価を反映しているものと考えられます。また、「自然観察」、「森林浴」、「登山」のためという回答は平均36%、12年度は45%となっています。これらのことから、自然・森林に触れその心地よさ、楽しさを感じたいという素朴な欲求が白神山地へと足を向かわせているものと考えます。(図-6)

図-6 白神山地を訪れた動機は何ですか



(イ) 個人で白神山地をまわるのではなく、イベントに参加することを選んだ理由（複数回答）

イベント参加の理由については、「知らないことを教えて貰える」が45%、「安全にまわれる」29%、「短時間で密度こくまわれる」18%となっています。自然に対する興味の高さと同時に、個人で森や山に入ることには不安があり、ガイド付きの自然観察や登山への参加を望んでいること、そして、そのようなイベントに参加することにより、参加者自身の学習意欲も増しているのではないかと考えられます。(図-7)

また、参加者との会話や、後から頂いたお礼状の内容などを見ると、多くの方は”森は緑のダムである”という一般的な情報は知っていても、なぜそのように言われているのかは知りません。同様に、森林の大切さや人が受けている恵みの多さについて知ってはいても、その内容についてはよく解っていなかったり、実感したことがないようです。森林を体験として知り、親しみ、楽しむための方法を知りたいと望んでいると考えます。

図-7 イベント参加理由

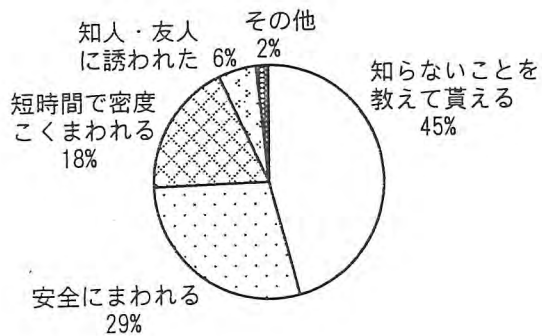
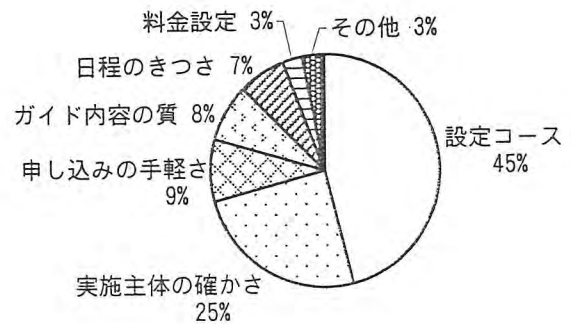


図-8 一番気にした条件



エ. 参加を決める際の条件

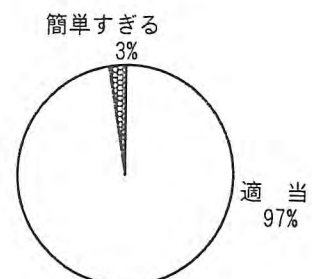
「参加を決める際に、条件として一番気にしたことはなんですか」との問いについては、「設定コース」が45%と一番多くなっていますが、これはどこを廻るかということだけでなく、体力的な面も加味しているのではないかと考えられます。次に、「実施主体の確かさ」25%、「申し込みの手軽さ」9%、「ガイド内容の質」8%となっています。今後、自然・森林に触れたいという要望はますます強くなると思われ、「実施主体の確かさ」は公的機関によるイベント実施への評価として、アピールのポイントになると言えます。(図-8)

オ. ガイドの内容

(ア) ガイドの内容

ガイドの内容については、「適当」が97%、「簡単すぎる」3%となっています。(図-9) 樹木・草花の名前や由来などを中心に、そこに住む動植物について、森林の働きやその維持・管理手法について等、幅広い視野でお話しするようにしています。「簡単すぎる」と答えた

図-9 ガイドの内容は如何でしたか



方の多くは、植物の名前等豊富な知識を持っておられます。「イベント参加の有無」で見たとようにリピーターが増加傾向にあり、参加者の知識の格差が広がってくると考えられます。そこで、単に植物の名前を解説するだけでなく、森林と人とのつながりを実感できるような、参加者自身が感じ、考えることができるような、知識の多少に関わらず楽しめるガイドの手法を検討していく必要があると考えます。

(イ) どのようなガイドが望ましいか

「どのようなガイド内容が望ましいですか」との問いについては、「ブナ林など森の中を散策する」が32%、「見晴らしの良い稜線を歩く」25%、「動植物など自然観察をおこなう」22%となっており、ゆっくりと森林に触れその素晴らしさを満喫したい、リフレッシュしたい、親しみたいという要望が強く見られます。また、一方では、森林への接し方、楽しみ方がわからないためにこのようなガイドを求めているとも考えられます。(図-10)

「何人ぐらいでガイド1人を利用するのが望ましいですか」(任意回答)との問いには、「7~10人」が62%、「4~6人」28%となっています。また、「声が届かず説明が聞こえない」という意見が数件寄せられており、ガイドの声が全員に聞こえる人数という点から見ても、ガイド1人につき10人以下が望ましいと思われれます。(図-11)

図-10 どのようなガイドが望ましいですか

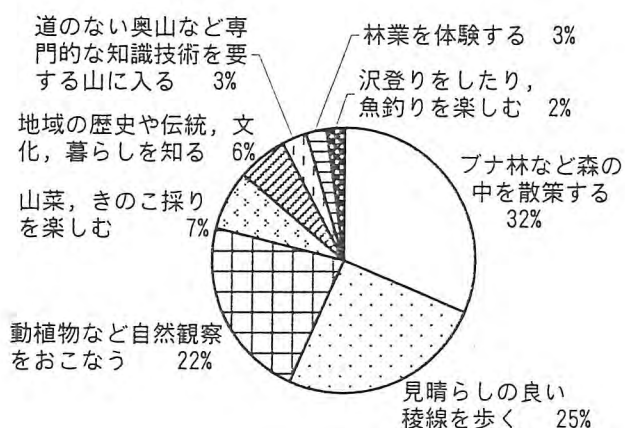
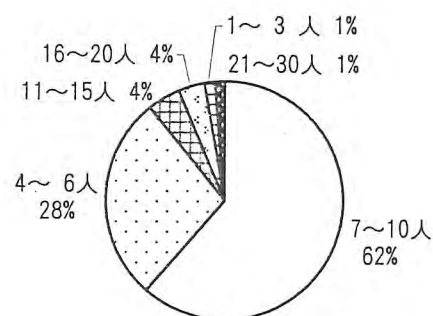


図-11 何人ぐらいでガイド1人を利用するのが望ましいですか



カ. どのような形で白神山地をまわりたいか

「どのような形で白神山地をまわりたいですか」(複数回答)との問いについては、「今回のような催しに参加する形」が70%と最も多く、次に「個人もしくはグループでガイドを雇う形」18%、「自分たちだけでまわりたい」10%となりました。何らかの形でガイドを望む人が9割近くいることがわかります。(図-12)

また、「今回以外にガイドを利用したことがありますか」(複数回答)という問いに対して、「今回のようにイベントに参加する形で利用したことがある」が48%、「個人またはグループでガイドを頼んだことがある」9%となり、6割近くがガイドを利用した経験があることがわかりました。(図-13)

図-12 どのような形で白神山地を
まわりたいか

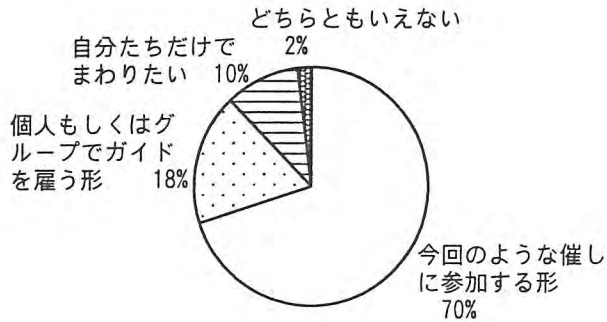
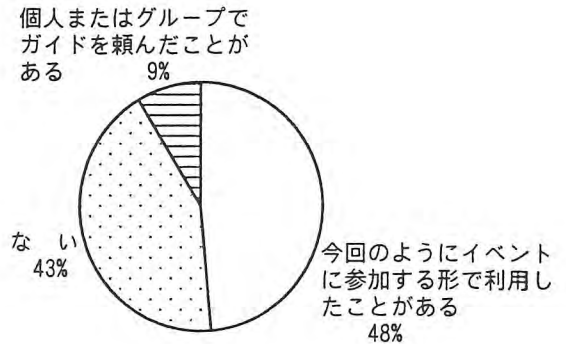


図-13 今回以外にガイドを利用
したことがありますか



4 おわりに

これまでイベントに参加して頂いた多くの方から、森に触れ感動したことや植物等に関心を抱いたこと、豊かな自然を守っていくことの大切さを実感しその大変さを知ったこと等を綴ったお礼状を頂きました。自然に実際に触れ、親しみを感じ、森林や林業について理解を深める機会を提供できたのではないかと思います。

今回の調査の結果では、ガイド事業には多くの需要があることがわかりました。具体的には”森の中や景観のよい山をゆっくりと歩き、そこに暮らす様々な動植物の営みを感じたい”というものです。これらは個人でも体験することはできますが、安全への不安や自然への接し方、楽しむ方法等が解らないため、それらを解説してくれる人を求めているという状況にあるようです。これまでは参加者に対して、植物の名前をはじめ森林とそれを取り巻く環境について解説してきましたが、それはそこにひそむ自然の心地好さを享受する方法を知ってもらうためです。人々が求めているものもそこにあるといえます。今後は、森に入るのが初めての人にも、たくさんの経験を持つ人にも楽しんで頂けるガイドを目指していきたいと思ひます。